

夏季特別陳列②

## ボンボニエール 絆をつなぐ銀の小箱

- 会場 1階 松平家史料展示室
- 会期 令和4年7月23日(土)～  
8月28日(日)

ボンボニエールは、皇室の慶事の宴席、海外からの賓客を迎えた会食（晩餐・午餐会）で、出席者に記念品として配られた手のひらサイズの菓子器です。その多くは銀製で、人と人、国と国の絆をつなぐハレの場にふさわしいデザインが凝らされています。

当館には大正期から戦前にかけてのボンボニエールが80点以上伝えられています。これらは松平慶民（16代福井藩主松平春嶽の嫡男）氏が宮内省（現宮内庁）に勤めていた折に拝領したものです。

本展では、慶民ゆかりのボンボニエールを即位の儀式や外交、人生儀礼など贈られた場面ごとに紹介します。一つ一つのボンボニエールのデザインに込められた思いとともに、極小の工芸美をお楽しみください。

### 【ボンボニエールとは】

「ボンボニエール」は、フランス語で砂糖菓子（bonbon）をいれる容器（bomboniera、bomboniere）に由来します。日本では古来より祝宴の際に引出物を配る風習があり、明治時代以降に皇室が近代化を進める中で日本の伝統とヨーロッパの文化が融合して、皇室の祝宴の記念品として小さな菓子器「ボンボニエール」を贈る習わしが生まれたと思われます。

皇室の宴席でボンボニエールが配られた一番古い記録は、明治22年（1889）憲法発布式後の晩餐会とみられます。その後、明治40年代までには皇室の慶事の際にボンボニエールを配ることが習慣化し、大正期には華族の慶事でも贈られるようになりました。

ボンボニエールは四角形や円形といったシンプルな形だけでなく、様々な器物のミニチュアなど、日本工芸の優れた技巧が凝らされたものが作られました。また、その素材の多くは銀ですが、太平洋戦争期には木や陶磁器となっており、形や素材に時代の影響を見ることができます。



梅花模様文庫形ボンボニエール  
大正14年高松宮宣仁親王成年式午餐  
(福井市春嶽公記念文庫)



犬張子形ボンボニエール  
昭和9年皇太子（現上皇）誕生祝宴  
(福井市春嶽公記念文庫)

### 【松平慶民とボンボニエール】

松平慶民（1882～1948年）は、明治35年（1902）渡英、オックスフォード大学を卒業して帰国した後、大正元年（1912）に宮内省侍従に任ぜられました。その後、昭和23年（1948）に退職するまで、宮中儀礼を担う式部官長官、皇族や華族の事務を掌る宗秩寮総裁、宮内大臣、宮内府長官などを歴任しました。その間、慶民はイギリス留学の経験を活かして皇族の外遊時の随行や来日賓客の通訳など皇室外交を陰から支えました。

当館所蔵のボンボニエールは、慶民が宮内省に勤めていた36年間に下賜されたものです。そのため、大正から昭和10年代までの限られた時期のボンボニエールとなっていますが、その多くに慶民自筆の由来札が付属しているため伝来が明らかであり、貴重なコレクションとなっています。



## 【即位大礼とボンボニエール】

即位大礼<sup>たいれい</sup>とは、天皇が即位したことを国内外に告げる即位の礼と大嘗祭<sup>だいじょうさい</sup>（収穫祭）、その後の大饗<sup>だいきょう</sup>（祝宴）など一連の儀式のことです。大正・昭和両天皇の大饗は2日間にわたって催されています。ともに大饗1日目は収穫を感謝する伝統的なもので各地の特産品を調理した和食が供され、引出物として銀製の挿華<sup>かざし</sup>が配られました。2日目は洋食が供され、ボンボニエールが配られました。大正天皇即位大礼の際は<sup>だいしん</sup>大嘗祭で用いられる祭器の、昭和天皇即位大礼の際は<sup>だいしん</sup>大礼で用いられる調度や雅楽器のミニチュアのボンボニエールで、2千名を超える列席者や関係者に配るため大量に作られました。



入目籠形ボンボニエール  
大正4年大正天皇即位大礼大饗2日目  
(福井市春嶽公記念文庫)

※挿華：冠に挿す造花で、金銀等で造られたものが大嘗祭で天皇から臣下に下賜される習わしだった。

## 【外交とボンボニエール】



兜形ボンボニエール  
大正8年オランダ公使との会食  
(福井市春嶽公記念文庫)

明治時代以降、外国王族や大使、使節団の来日、大正10年(1921)の皇太子(後の昭和天皇)ヨーロッパ歴訪に代表される皇族の外国訪問など外国との交流が盛んになりました。大正時代には来日した賓客を招いた会食も増え、その規模は数十人から100名を越えた大規模なものまで様々です。会食の相手国にあわせて、その国の国旗や国花などをデザインしたオリジナルのボンボニエールが用意されることもありましたが、小規模の会食では予め作り置きされていたものが贈られたようです。作り置きされていたボンボニエールは、兜形や鳥籠形、牛車形など日本の伝統的な器物のミニチュアが多く、細部まで表現されたリアルさもあいまって自国への土産としても喜ばれたことでしょう。

## 【人生儀礼とボンボニエール】

子の誕生や成人、結婚といった人生の節目で贈られたボンボニエールには、子の誕生では犬張子形やデندن太鼓形、結婚では燕や松、鶴といった吉祥文様が施されるなど、贈られる場にふさわしいデザインがなされました。また、ボンボニエールの多くには、贈り主の家紋やお印<sup>おしる</sup>がデザインされています。

一つ一つが凝った作りのボンボニエールですが、誰がそのデザインを考え、決定したのか明らかなものは多くありません。そのような中で、当館所蔵のボンボニエールの中には、大正天皇の皇后である貞明皇后<sup>ていめいこうごう</sup>がデザインを決めたことが由来札から明らかなものがあり、貞明皇后がボンボニエールのデザインに積極的に関わっていたことがうかがわれます。

※お印：皇族らが身の回りの道具につけるシンボルマーク。大正天皇は「壽」の字、昭和天皇は若竹など。

### 主要参考文献

『ボンボニエールと近代皇室文化』長佐古美奈子 えにし書房 平成27年

『皇室とボンボニエール』三の丸尚蔵館展覧会図録No.77 平成29年

『皇室のボンボニエール 増補新版』扇子忠 安部出版 令和元年



鼓形ボンボニエール  
昭和3年秩父宮婚前内宴  
(福井市春嶽公記念文庫)

八重梅形ボンボニエール  
昭和4年  
照宮(昭和天皇第一皇女)  
御着袴(5歳)の内宴  
(福井市春嶽公記念文庫)



次回の展示

企画展

お殿様の御刀拝見

9月1日(木)~10月4日(火)

展示解説シート No.152 令和4年7月23日発行  
福井市立郷土歴史博物館 〒910-0004 福井市宝永3-12-1  
電話 0776-21-0489 Fax 0776-21-1489  
担当：藤原千穂 印刷/宮本印刷